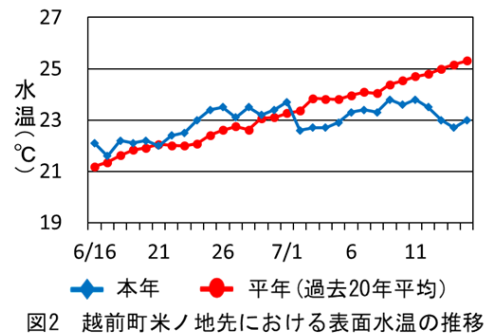
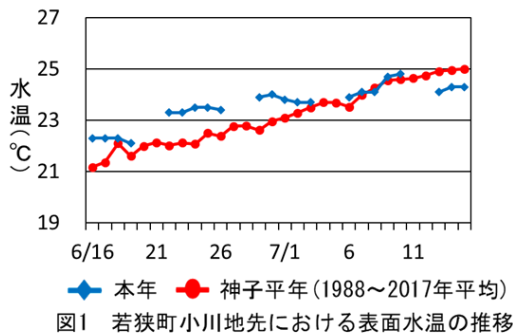




〔海の状況 (6/16~7/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 6月は神子平年並み(平年差±0.5℃)からかなり高め(平年差1.0℃~1.5℃)で推移したが、7月以降はやや低め(平年差-1.0℃~-0.5℃)から平年並みで推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 6月は平年並み(平年差±0.5℃)からやや高め(平年差0.5℃~1.0℃)で推移したが、7月以降ははなはだ低め(平年差~-1.5℃)からやや低め(平年差-1.0℃~-0.5℃)で推移した。(図2)



〔若狭湾および周辺海域の海況：6月〕

6月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾東部で18℃~20℃と前年より水温が低くなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で16℃~20℃と前年同様であった。水深100mでは、若狭湾沿岸で16℃~18℃と前年より水温が高くなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が小さくなっていた。(図3)

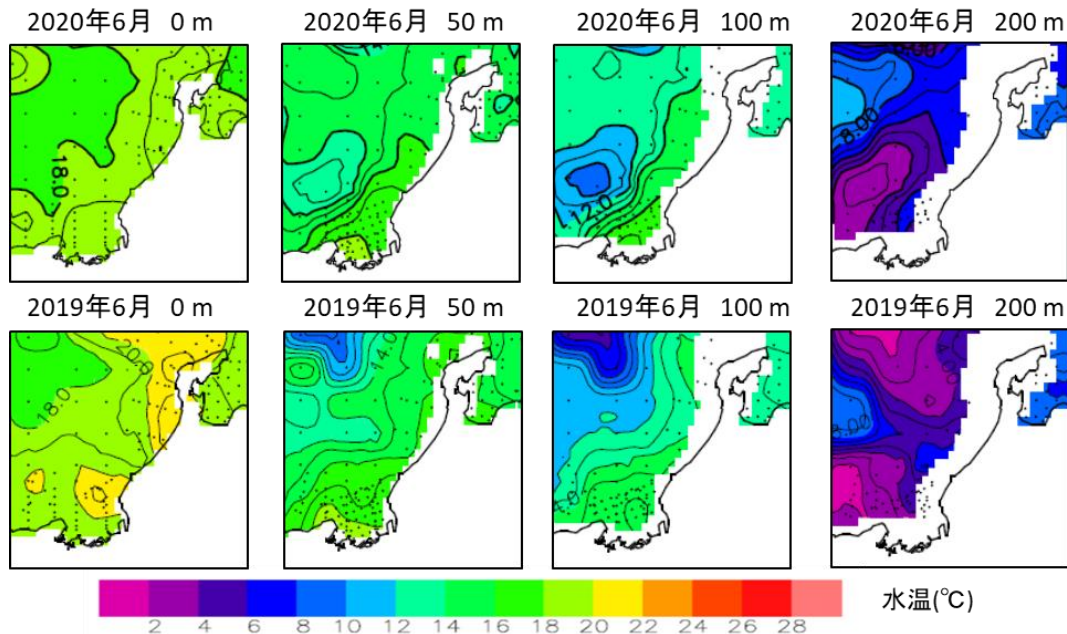


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

スルメイカの漁模様

今年の6月は期間を通してスルメイカのまとまった漁獲が見られました。

6月のイカ釣り漁による漁獲量は231 tと前年(246 t、対前年比:94%)は下回りましたが※**平年**(142 t、163%)を大きく上回る漁獲がみられ、6月のスルメイカ漁は前年同月並みの豊漁であったと言えます。

前年はスルメイカの漁獲が9月頃まで続いており、今年は漁獲がどのように変動するか注目していきたいと思います。

※**平年**は2010-2019年の10年平均です。

(漁場環境グループ 長島 拓也)

〔県内の漁模様：6月〕

2020年6月の県内の総漁獲量は1,501 tで、前年同月を252 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は1,138 tで、前年同月を284 t上回った。ヒラマサ、ブリ(ワラサ)、スズキ等は下回ったが、トビウオ、サワラ、ブリ(ツバス)等は上回った。

〔底びき網〕

漁獲量は52 tで、前年同月を11 t下回った。アカエビ、その他エビは上回ったが、アカガレイ、キダイ、ニギス等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は311 tで、前年同月を21 t下回った。タコ類、ケンサキイカ等は上回ったが、スルメイカ、スズキ、メバル類は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(6月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差	魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マイワシ	516	3,939	930	-3,423	-414	キダイ	0	3,393	1,597	-3,393	-1,597
カタクチイワシ	9,856	3,390	7,396	6,466	2,460	アカガレイ	48	4,099	5,579	-4,051	-5,531
アジ類	108,659	100,723	175,050	7,936	-66,391	その他カレイ	106	811	1,322	-705	-1,216
サバ類	25,678	6,504	42,965	19,174	-17,287	ハタハタ	39	570	553	-531	-514
マグロ類	1,847	6,328	4,301	-4,481	-2,454	ニギス	45	2,823	519	-2,778	-474
カジキ類	562	352	875	210	-314	タコ類	215	442	463	-227	-248
カツオ類	7,083	1,552	2,193	5,531	4,889	アカエビ	48,605	40,575	42,608	8,030	5,997
ブリ類計	525,762	442,082	308,490	83,680	217,272	その他エビ	2,335	1,834	3,642	501	-1,307
ブリ	316,599	293,743	86,532	22,856	230,068	その他	267	8,317	4,916	-8,050	-4,649
ワラサ	10,478	23,918	22,214	-13,440	-11,737	合 計	51,661	62,864	61,198	-11,204	-9,537
ハマチ	26,494	9,683	41,783	16,810	-15,289						
ツバス	171,801	114,681	157,912	57,120	13,890	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
アオコ	390	56	49	334	341	魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ヒラマサ	2,088	36,486	6,026	-34,398	-3,938	マダイ	868	1,777	2,381	-909	-1,513
シイラ	11,036	8,783	2,477	2,254	8,559	キダイ	7,513	6,992	6,408	521	1,105
サワラ	192,997	116,073	147,567	76,924	45,429	アマダイ	3,220	3,752	4,066	-532	-846
トビウオ	183,586	70,317	149,515	113,269	34,071	スズキ	943	2,525	4,415	-1,581	-3,472
マダイ	3,792	7,741	9,658	-3,949	-5,866	アナゴ	1,457	1,218	2,929	239	-1,472
クロダイ	769	1,421	1,418	-652	-649	メバル類	1,267	2,746	3,974	-1,479	-2,707
スズキ	5,417	10,441	9,232	-5,023	-3,814	スルメイカ	230,873	245,794	141,936	-14,921	88,937
ヒラメ	787	823	1,158	-36	-371	アオリイカ	700	348	317	352	383
カマス	2,190	5,954	6,085	-3,765	-3,896	ケンサキイカ	1,631	763	2,141	868	-510
フグ類	1,425	1,953	7,215	-528	-5,790	タコ類	32,090	29,394	35,405	2,696	-3,315
スルメイカ	2,168	171	10,158	1,997	-7,990	その他	30,604	37,125	75,575	-6,521	-44,970
アオリイカ	2,528	1,844	650	684	1,877	合 計	311,167	332,433	279,547	-21,266	31,620
ケンサキイカ	35,099	9,638	13,557	25,461	21,542						
タコ類	1,291	1,177	749	115	542	全漁法 (kg)					
その他	7,135	9,318	10,566	-2,183	-3,432	魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合 計	1,137,915	853,750	924,097	284,165	213,817	合 計	1,500,743	1,249,047	1,264,842	251,695	235,900

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2019年の5年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県:6月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府:6月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県:6月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県:6月中旬~7月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…フクラギ・コゾクラ12.8 t、スルメイカ7.2 t、サバ7.2 t、マアジ6.0 t、サワラ類4.8 t

京都府…定置網…トビウオ類5.2 t、サバ類3.7 t、マアジ3.0 t、サワラ2.3 t、ブリ類1.3 t、ケンサキイカ1.3 t

兵庫県…定置網…シロイカ234 kg、アジ135 kg、トビウオ104 kg、スズキ49 kg、スルメイカ16 kg、マサバ15 kg

鳥取県…まき網…マイワシ13.8 t、マアジ9.3 t、カタクチイワシ4.1 t、ウルメイワシ2.6 t、マサバ1.2 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

2020年度スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月中旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果(表1)

福井県沖合の4定点(図1)において、釣機6台を用いて毎晩20時~4時の8時間釣獲試験を行いました。

- 漁場水温…釣獲海域の表面水温は20.3~23.0°C(2019年:21.0~21.8°C)、50m深水温は11.2~16.3°C(同:9.7~17.0°C)でした。
- 釣獲結果…総釣獲尾数は、44尾(2019年:2,738尾)、CPUE(釣り機1台1時間あたりの釣獲尾数)は0.02~0.90尾、平均0.23尾でした。
- 体長組成…釣獲されたイカの外套背長(胴の長さ)は、7月4日操業においては22cm、7月5日操業においては11~13cmが主体でした。

表1 調査点およびスルメイカ釣獲調査結果

月日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日
調査位置	N36° 39'	N37° 57'	N37° 39'	N37° 00'
	E134° 59'	E135° 01'	E135° 40'	E135° 39'
釣獲匹数	0	0	1	43
CPUE	0	0	0.02	0.90
平均外套背長 (cm)	-	-	22	12
表面水温 (°C)	21.50	20.60	20.30	23.00
50 m深水温 (°C)	16.33	15.89	11.18	14.94
標識放流匹数 (匹)	0	0	0	0

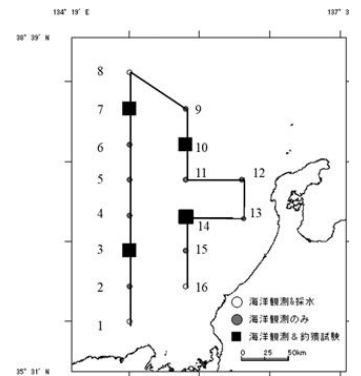


図1 スルメイカ釣獲調査点

(2) 日本海全体の状況(図2)

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全調査定点におけるCPUEの平均は14.50尾で、前年(7.40尾)を上回り、近年平均(11.02尾)の約132%でした。

道北~道央海域では、外套背長16cm台~18cm台の個体が中心に採集され、CPUEは241尾が最大でした。

本州西部日本海では、外套背長12cm台~13cm台の個体が中心に採集され、CPUEは隠岐東の33尾が最大であったほかは5尾を下回り、漁獲のない点もありました。

沖合域では、外套背長14cm台~15cm台が主体で、19cm台~20cm台も採集された。CPUEは、北緯39度40分、東経137度40分(図2参照)の点で212尾が最大でした。今年は大和堆周辺より、大和堆から北東に外れた海域でCPUEが高い傾向にありました。

今後の見通しとして、西部日本海では、来遊量は前年および近年平均(過去5年平均)を下回り、沖合からの南下群による好漁場は形成されにくいと予想されます。

沖合域の来遊量は、前年を上回り近年平均を下回ると予想されます。主漁場は、北海道西沖で8月~11月、大和堆周辺海域で11月~12月に形成されると予想されます。

今回の調査では、各試験研究機関でスルメイカの標識放流を実施しています。標識の付いたスルメイカを再捕されましたら水産試験場までご連絡をお願いいたします。

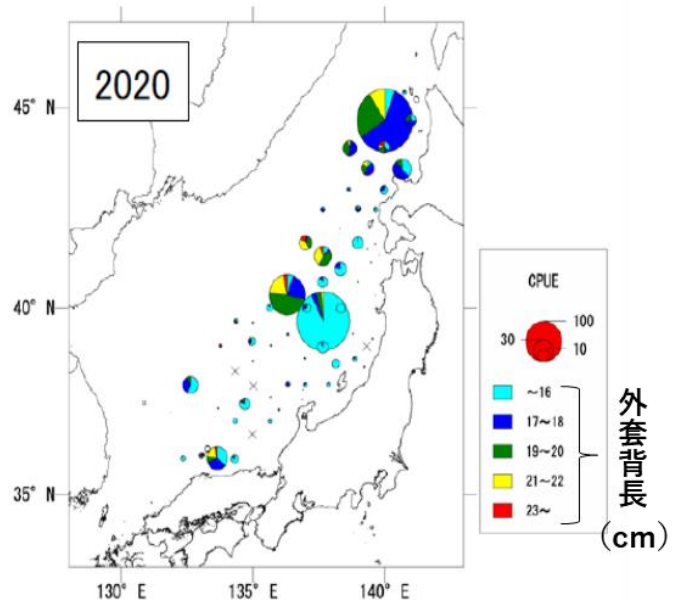


図2 日本海におけるスルメイカ分布

(漁場環境グループ 長島 拓也)